



# 会 報

第2号

昭和55年4月

## 社団法人 北海道美術館協力会

札幌市中央区北1条西17丁目 電話011-644-4025・北海道立近代美術館内



(サンピエトロ寺院前にて～ローマ)



### 晩秋のヨーロッパ 美の探訪、を終えて

団長 木路毛五郎  
(事業部担当理事)

1979年11月10日、17時30分 千歳空港定刻通り出発  
成田着19.00。

JAL433便、21.30定刻通り出発(アンカレッジ経由)

11月11日 乗換地点フランクフルトでは5時間があり、この5時間のブランク(blank)は全日程10日間の時間では極めて無駄であるがこれは、今回の旅行を出来るだけ安価に仕上げようとしたための操作であった。

しかしこのフランクフルト空港での5時間は結果的に最良とさえ言えるものになった。フランクフルト国際空港には沢山の売店、レストラン、スナック等があり、ここでまず外国のお金を使用する訓練が出来たこ

とと、この5時間はカルチャーショックをおさえる役目になった。

11月11日

最初の目的地ローマに定刻より1時間程遅れ着く。交通公社差し回しの迎いのバスに乗りローマ市内を見学。夕刻5時頃ホテル BEVERLY HILLS HOTEL にチェックインする。夕食は各自自由にとるスケジュールであったが、初めての外地では不馴れもあろうとバスチャーターで全員そろってレストランに行く。

11月12日 AM9.00

迎いのバスに乗り、ヴァチカン宮殿、ヴァチカン美術館(ラファエロの間)等を観賞する。最も楽しみにしていたシスティーナ礼拝堂(ミケランジェロの連大伴天地創造の図等がある)は法皇の特別使用のため一般入場が出来なかった。

昼食には日本レストランで日本食をとり一同、日本茶に歓声をあげる。

午後市内をバスで回る、午後5時頃ホテルにもどりOP以外は自由行動する。

11月13日

この日は1日自由研修の日。OPではナポリ、ボンベイ。

12日の夜「パリ空港でストライキ」の情報が入り、本格的な全面ストは我々がパリに入る日14日に行われる。その対策のために団長、添乗員はナポリ、ボンベイに行かず（交通公社差し回しのガイドにまかせる）団長代理を熊谷秀雄氏に依頼する。最悪の事態ではローマからパリまで汽車で行く他なし。

団長はホテルで待機、最終的な決断を下す用意をする。添乗員、野沢氏は、ローマ日本交通公社につめ、最良の方法を検討する。

夕刻、TWA機だけがパリに入ることが出来るという情報を得、AZ（アリタリア航空）から急ぎ乗換の交渉を依頼、52名の大団体は本来ならば不可能に近いところ、ベテラン添乗員のねばりの折衝と日本交通公社の従来の実績がそれを可能にする。夕方5.30分、OP団全員無事ホテルにもどる。

11月14日

予定より1時間遅れ、AZからTWAに乗る。

9.00出発の予定が、今度はローマの空港がストライキをおこし機内で3時間弱待機させられる。したがってパリ着が大幅に遅れ、着後パリ市内見学はそのため予定を変更、モンマルトル、ノートルダム寺院の2カ所を大急ぎで回る。

夕方5時頃ホテル MODERNE PALACE にチェックインする。

11月15日

9.30、ルーブル美術館研修へ出発。団体バスを使わず全員地下鉄に乗せる。これには二つの理由がある。

バスチャーターは高くつくという事と、パリの地下鉄は非常に使いやすく、市民が日常利用しているものを使用することはその街をよく知ることが出来るということである

ローマ・ヴァチカン美術館ではガイドが作品解説をして同行のコーディネーター齊藤泰嘉（道立近代美術館学芸員）氏は解説をしなかった。

ルーブル美術館においてはガイドを断り、齊藤氏に出発前の予定通りの作品を解説してもらう。

OP〈フランス料理を食べる会〉PM7.30~10.00.

この日、会員金田由美氏21歳の誕生日であることを知り、団長として、バースデーパーティーに切り替えることを計画。私かにバースデーケーキを用意させる。席上、彼女の誕生日を会員に知らせ皆で祝う。

11月16日

美術研修（オランジェリー美術館、ロダン美術館、印象派美術館）オランジェリー美術館のマネの大作「水蓮」を多くの会員は楽しみにしていたのだが、美術館改修工事のため休館。印象派美術館において団長が作品解説をする。

入館のとき、我々の一行を美術学校の学生として美術館は受けとめ、入場料を6F無料にしてくれる。美術ファンであり、美の探訪者にはちがいないが、美術学校生であるといつわったことに、いささか心痛む。

11月17日

この日はOP「ベルサイユ宮殿とシャルトル」は朝の7時に出発。ほとんど参加。団長はホテルで留守番。

夕刻OPで帰った連中をつれ、モンパルナスを案内する。

11月18日

7.40 A F 740便でパリ・ドゴール空港を飛び立つ。ホテルから空港までのバスの中で団長から団員へ最後のメッセージを送る。

11月19日

16.15 定刻より1時間遅れて成田に着く。成田発17.40 J A L 563便で千歳に向う。19.15千歳着、そこで解散。

人身事故が一つもおこらなかったことは幸といえる。総感として今回の旅行は大成功と言えよう。

## 「晩秋のヨーロッパ」の旅に思う

小樽市 玉井 武

カヨ

金婚の喜びをどのようにあらわそうかと、家中でよりより話し出しているところに舞込んで来たのが、今度の美の探訪旅行の案内状でした。一家中で「これ、これ。」と言うことになり、歓呼の聲に送られての申込になりました。しかし結果的にはわれわれ2人が、最長不倒距離の保持者となり、終始いたわりや励ましの言葉をかけていただいて、10日間の旅程をどうやらこなしたというのが実状で、木路団長や野沢さんの「シンケン」をなやましつづけていたことと恐縮に堪えません。

さて今度の旅行を振りかえってみて、低廉な費用で、日程を大体予定通りこなせたことに感謝し、又事故も怪我もなく、千歳や成田で初顔合せの人達が、寝食や行動を共にするにつれ、温かく結ばれていったことは、本当に素晴らしかったと思います。

空港管制官のストなどというものがその間に入り、旅程をかなり狂わせましたが、野沢さん方のご尽力で大きな行程の変化もなしに成田に帰着出来て、全員がほっとしたことでした。かねてきていましたフランスの田園の美しさをいつか探勝してみたいと思っていましたところ、今回のシャルトル行きで、宿年の願いをかなえて貰った気持です。

欲を言えば、もう少しゆっくりと美術鑑賞がしたかったとか、システナ礼拝堂のミケランジェロの「天地創造」の凄じい勇渾さに触れてみたかったとか、色々な希望・願望が出て来ましようが、日数・費用・人数などを考え、これが(社)北海道美術館協会の第1回目の企画であることに思いを致せば、成功であったと断言してはばからないと思いたします。

最後に私共兩名は、東京で3日間からだを休めて、11月22日に帰り、以前の生活に無事復帰致しましたことを申し添え、ご好意をいただきましたごな様にも心から感謝申し上げます。(55.1.18)

## 昭和55年度事業計画

### 基本方針

この法人の目的とする道立の美術館の事業活動に対する協力、及び道民の美術に関する知識と教養を図るために必要な事業を行う。

### 重点事項

1. 美術館の事業内容に即応した協力体制の確立。
2. 特別会計事業の効率的な運営
3. 会員の拡充と収入の確保

### 実施計画

各事業内容に応じ、つぎのとおり実施する。

#### 第1. 美術館活動協力事業

1. 道立近代美術館（以下近代美術館という）と年間2回美術講演会を共催する。
2. 近代美術館主催美術展の開催レセプションへの協力を行う。
3. 近代美術館に美術作品カラースライド500枚を寄贈して同館の美術資料整備に協力する。
4. 道立三岸好太郎美術館が実施する講演会等に対し、一部助成する。
5. 婦人ボランティアにより、近代美術館主催展覧会のポスター掲示、館内作品解説活動、前売券、及び美術関係商品頒布等の協力を行う。
6. 老人、身障者を近代美術館の特別展に招待する。
7. 道内美術館の行事案内、エッセイ、当協会の活動状況等を掲載した機関紙を年間4回発行する。

#### 第2. 美術講座等開催事業

1. 地域社会における美術館活動の情報提供及び美術館における作品解説、売店事業の援助等、ボラ

ンティア活動への理解と参加を醸成するため、婦人50人を対象に5月から10月までの間延20回にわたり婦人美術講座を開催する。

2. 道立近代美術館が実施するガラス、版画等の初歩的な技法講座年間3回のうち、一部助成する。

3. 他市において道内在住の美術評論家を講師に招き50人の入場を見込み美術に関する講演会を開催する。

#### 第3. 美術研修視察事業

1. 5月下旬に30人の参加を見込み、東京、京都、及び奈良の美術館の研修視察を行う。
2. 11月初旬に30人の参加を見込み、ヨーロッパ及びスペイン（又はオランダ）の美術館の研修視察を行う。

#### 第4. 美術資料収集作成頒布事業

美術に関する知識の向上を図るため、解説書、ポスター、目録、その他の美術資料を数種類作成頒布する。

#### 第5. 売店経営事業

近代美術館内における美術関係商品の販売経営については常に商品の選定とサービスに留意し、効率的な回転と不良在庫品の一掃に努め、収益事業本来の利潤増収を図る。

#### 第6. 駐車場管理事業

近代美術館入館者に不便を来さないよう、一般車にも効率的に開放することとし、収支バランスを勘案しながら健全かつ、安全な管理事業を行う。

#### 第7. 会員の拡充と会費の収入確保

会員の拡充その他については前6項目の実動事業とは別途に検討を行う。

## 昭和55年度収支予算書

区分 会計別	収入の部						支出の部					
	勘定科目		予算額	前年度 予算額	増減	勘定科目		予算額	前年度 予算額	増減		
	大科目	中科目				大科目	中科目					
一般 会 計	基 本 貯 産 運 事 業 会 費 寄 付 金 雑 収 入 基本 財 産 収 入 繰 入 金 収 入 繰 前 支 差 額	収入	341	341	0	管 理 費	2,397	1,390	1,007			
	事 業 収 入	120	0	120	事 業 費	1,754	1,186	568				
	会 費 収 入	2,433	2,002	431	美 術 館 活 動 費	170	70	100				
	寄 付 金 収 入	80	8,340	△ 8,260	美 術 館 研 修 費	800	2,890	△ 2,090				
	雑 収 入	40	50	△ 10	美 術 館 視 察 費	0	5,000	△ 5,000				
	基本 財 産 収 入	0	5,000	△ 5,000	美 術 館 資 料 集 成 費	1,000	6,500	△ 5,500				
	繰 入 金 収 入	2,000	2,000	0	美 術 館 振 興 費	200	300	△ 100				
	繰 前 支 差 額	1,307	0	1,307	予 備 費							
	小 計	6,321	17,733	△ 11,412	小 計	6,321	17,336	△ 11,015				
	特 別 会 計	事 業 収 入	売上 収 入	15,995	10,000	5,995	事 業 費	1,794	1,728	△ 34		
雑 収 入		15	10	5	賃 借 料	4,560	760	3,800				
繰 前 支 差 額		24	0	24	印 刷 費	7,548	5,094	2,554				
小 計		16,034	10,010	6,024	仕 入 費	2,000	2,000	0				
駐 車 場 収 入		駐 車 場 使 用 料	9,938	2,080	7,858	繰 入 金 支 出 費	100	400	△ 300			
雑 収 入		15	5	10	小 計	116,002	9,982	6,020				
繰 前 支 差 額		0	0	0	駐 車 場 事 業 費	3,245	0	3,245				
小 計		9,953	2,085	7,863	賃 借 料	4,735	950	3,785				
特別 会 計、 収 入 計		25,987	12,095	13,892	除 雪 委 託 料	840	802	38				
収 入 合 計		32,308	29,828	2,480	水 道 光 熱 費	533	269	264				
				予 備 費	600	64	536					
				小 計	9,953	2,085	7,863					
				特別 会 計、 支 出 計	25,955	12,067	13,888					
				支 出 合 計	32,276	29,403	2,873					
								次 期 繰 越 収 支 差 額 32千円				



## 駐車場管理事業 の開始について

美術館協力事業の一環として、かねてから道に申請していた、市内中央区北1条西17丁目、及び同18丁目の道立近代美術館駐車場の当協会への貸付について、昭和54年12月8日、認可されましたのでつぎの要領で同日から事業を開始しています。

### 1. 利用計画

- (1) 道立近代美術館観覧者のうち乗用車による入館者に対し、駐車のために供するための駐車場とする。
- (2) 開放期間は通年とする。
- (3) 開放時間は午前9時から午後5時までとする。(ただし、休館日は閉鎖する)

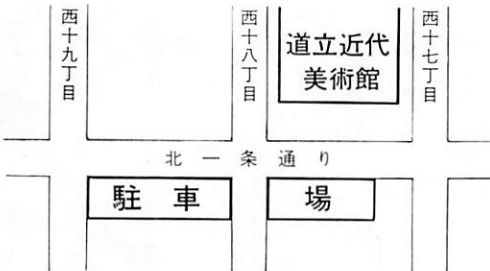
### 2. 事業計画

- (1) 駐車場の貸付料及び維持管理に要する経費に充つため、つぎのとおり料金を徴収する。
  - ア 入館者  
整理料として2時間まで150円(以後1時間毎に50円増)
  - イ 一般利用者(時間貸)  
使用料として最初の1時間は200円(以後30分毎に50円増)
  - ロ 年間利用予想台数  
入館者分 23,875台  
一般利用者 15,000台

### 3. その他参考事項

この駐車場は、第2種普通財産(土地、工作物)として道から貸付を受け使用条件、貸付料等については賃貸借契約書により定められています。  
なお収容スペースはつぎのとおりです。  
西17丁目側～1,917㎡92(53台収容可)  
西18丁目側～2,543㎡73(84台収容可)

(位置図)



(道立近代美術館駐車場)

## ◎名誉会員が決まりました

昭和55年2月7日開催された臨時総会でつぎの方々が定款第4条第3号に定めある名誉会員に万場一致で推薦されました。

### ◦堂垣内尚弘殿

(推薦の概要) 当協会の前身「北海道美術館協力会」が昭和52年4月に発足以来、物心両面に亘り指導、援助をされ、特に54年8月の法人化に際しては積極的な助言と指導が大きな要因となり予定通り設立認可となったのであります。

### ◦福本勝雄殿

(推薦の概要) ご当人は財団法人梅津奨学院理事長として多忙な身にもかかわらず常に当協会に関心をもたれ、特に54年8月の法人化に際しては貴重な浄財300万円を寄付されるなど今後の事業推進に明るい希望と自信を与えてくれました。



## 会員の拡充について

当協会の目的とする道立の美術館等の事業活動への協力を、一層促進するためには、今後さらに内容の充実した会員の拡大が必要とされてきますので、全会員がそれぞれの分野において、身近な方々への啓もうをして戴き、恒久的な財源の確保を図りつつ、より有効、適切な美術館協力活動を推進していきたいと思っておりますので、よろしくご協力の程をお願いいたします。

なお、現在使用中の会員証及び会員募集要領等は旧協会のもので残数も少なくなってきましたので、近く新様式のものとし、逐次更新する予定であります。

## ※おことわり

「晩秋のヨーロッパ、美の探訪」参加者のうち玉川さんの外に数名の方々からも貴重な感想文を寄せていただきましたが紙面の都合上、割愛させていただきましたのでご了承ください。



きびしい寒さと大雪から、やっと開放されて若草もえる季節となりました。

54年の8月に社団法人となり、その体制作りにも多忙な数ヶ月でしたが、当初立案された事業計画もほぼ順調に実行

されて初年度を終了いたしました。

55年度以降は更に事業内容の充実を図り、道民の美術に関する知識と教養の向上に努めるとともに美術振興基金の蓄積を図り、真の美術協力団体としての活動を推進していきたいと思っておりますのでよろしくご協力の程をお願いいたします。

発行責任者(広報部) 小梁川重彦